

論文審査結果の要旨

○論文名：介護保険制度の政策過程の分析と実施後の検証

○氏名：増田 雅暢

(埼玉県 昭和29年2月4日生)

○論文審査内容の要旨

本論文は、わが国における21世紀の本格的な高齢社会に対応するための介護保険制度創設の政策過程をリアルタイムで政策策定に関わった立場から分析するとともに、制度実施後の状況を検証し、当初からの課題また実施途上に浮上してきた課題の考察から今後の介護保険を見据え、その将来像を展望した研究である。

本論文では、(1) 介護保険制度の創設における政策過程分析と (2) 当該保険実施後の検証と課題の抽出及び (3) 介護保険制度の今後の課題としての家族介護のあり方、の3部から構成されている。第一部では、介護保険制度の創設の是非、保険者のあり方、被保険者の範囲、保険給付の内容、介護支援専門員資格取得の要件等をめぐって、政府・与党内の議論に加えて、地方自治団体や医療・福祉団体、さらには市民団体も加わってさまざまな議論がなされたことや、それらの論点がどのように整理・調整され最終的に収斂されて介護保険制度が創設されたのかを明らかにしている。著者は当時、厚生省内で介護保険制度創設の検討チームの主要メンバーとして加わっていたことから、外部からではうかがえない内部の資料や議論の推移に係る記録を活用して、介護保険制度の政策形成・決定過程について、具体的かつ詳細に分析している。また、介護保険というわが国にとって30数年ぶりの社会保険が創設されるに至った背景には、社会党党首を総理とするいわゆる「自社さ政権」が成立した当時の政治環境の果たした役割が大きいとしており、与党内の福祉プロジェクトチームの活動など、90年代半ばのわが国のリベラルな政策過程の特徴を浮き彫りにした。第二部の介護保険の実施以降の状況については、豊富なデータ、資料をもとに創設後の推移を追跡、評価し、要介護認定の問題、介護サービス利用者の増大の背景と保険給付、介護福祉士ビジネスの勃

興等を論じるとともに、今後の課題として保険財政肥大化への適切な対応や、介護従事者の処遇改善を図る介護報酬の改定等を抽出している。第三部においては、家族介護を評価する手法のひとつである介護手当について、これまでの議論の動向、賛成論・反対論の内容、意義や仕組みの国際比較、要介護者家庭に対する日韓意識調査結果等の各側面から論じ、今後の方向について展望した。

以上の結果より、本論文の成果は、学術上また介護保険の実際面と今後の展開に寄与するところが少なくないとみなされる。よって、本論文は博士（保健福祉学）の学位論文として価値あるものと認める。

学位審査委員会

主査	教授	田内	雅規
副査	教授	中村	光
副査	准教授	中村	孝文
副査	教授	二宮	一枝
副査	教授	木本	眞順美
副査	教授	浜田	淳（岡山大学医歯薬学総合研究科）